

特定非営利活動法人 会員誌

ふれあいサポート館アトリエ



⇒E-mail fureainpo@gmail.com

⇒ホームページ

<http://www.fureai-support.jp/>



最終号

令和5年2月15日

- 法 人 事 務 所 ・ ア ト リ エ TEL 0244 (36) 5420
〒976-0042 相馬市中村字北町1-8 FAX 0244 (26) 5424
- デ イ サ ー ビ ス 友 遊 (北 町) TEL 0244 (26) 5424
- デ イ サ ー ビ ス 友 遊 (南 飯 渕) TEL 0244 (36) 3582
- 中 央 児 童 セ ン タ ー (ポ ニ ー ク ラ ブ) TEL 0244 (35) 2008
- 飯 豊 小 放 課 後 児 童 ク ラ ブ (ひ ま わ り ク ラ ブ) TEL 0244 (37) 8870
- 日 立 木 小 放 課 後 児 童 ク ラ ブ (め だ か ク ラ ブ) TEL 0244 (35) 3400
- 磯 部 小 放 課 後 児 童 ク ラ ブ (げ ん き ク ラ ブ) TEL 0244 (32) 1787
- 八 幡 小 放 課 後 児 童 ク ラ ブ (な の は な ク ラ ブ) TEL 0244 (26) 9011
- 相 馬 こ ど も の み ん な の 家 TEL 0244 (35) 4700

今年度も南飯渕・北町アトリエ教室で、幼稚園や学校が違うお友達ともすっかり顔馴染みになり、かけがえのない友達関係を作った人が少なくありません。それぞれ1年間のグループ学習を通して大きな成果をあげることができました。楽しかったね!!!
支えてくださいました保護者の皆様はじめ関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

おたのしみ会のお知らせ

毎回の教室が、おたのしみ…の教室でしたが、3学期の最終勉強日を、今年度最後の思い出づくり・おたのしみ会とします。

水曜日コース 3月8日

金曜日コース 3月10日



コロナ禍前は、子ども達の親睦を深める意味で、3月の最終勉強日は、それぞれの家庭でプレゼントを用意していただき、交換を行っておりましたが、今年度もコロナ禍の中なので当アトリエで用意したプレゼントを交換します。お楽しみに！お休みしないでね。
リーダー・スタッフも楽しみ…に準備しています！

※プレゼント提供は、北町の渡辺良行さん・折り紙で作った回るコマは新田の高橋トミ子さん(相馬絵画研究所の元保護者様です)

☆☆☆ 次年度への継続入室について ☆☆☆

今回の修了展で今年度の修了、1年の締め括りとなります。次年度は令和5年度、創立より58周年になります。

長い間、保護者の皆様はじめ多くの方々からご支援いただきましたことに感謝申し上げます。

アトリエでは、1966年創立以来、毎回の創作活動に加えて、野外活動・自然体験活動・生活体験活動等の様々な体験学習をする場を提供して豊かな心の育成に努めてきました。644回行った体験活動も原発事故の影響ですべて中止しておりましたが、その後「通学合宿」「サマー合宿」「田植え体験」食育のすすめ「糶・味噌作り」を再開することができました。

しかし、ここ3年はコロナ禍の中で思うように活動は出来ませんでした。
今年度も限られた中でも子ども達に感動体験の場を作ることができました。

子ども達が大人になった時にすばらしい活躍ができますよう、保護者の皆様と共に

お子様の精神的・身体的能力を引き出すためのアプローチをこれからも続けていきたいと思っております。

令和5年度のお勉強は、4月から新しいお友達・会員のみなさんを加え、新たにスタートいたします。

毎年、退室される方がごく一部なので、継続入室の方は自動的にこちらの方で手続きをいたします。

また、何らかの理由で退室される方は、3月10日(金)までに担当の者に直接、またはお電話にてご連絡ください。

※10日以降に退室のご連絡をいただいた場合、自動振替処理の関係で4月分会費が発生しますのでその後の返金処理は出来なくなりますのでご了承ください。

令和5年度 かがぞうけいきょうしつ 会員募集!

おともだち

をご紹介します。



令和5年度のかげぞうけいきょうしつお勉強は4月から始めます。

また、かがぞうけいきょうしつの成果をご覧いただくため
修了制作展「こどものえてらんかい」のご案内をいたします。

新たに入会希望の方をご存知でしたらご紹介をお願いします。

別紙(クリーム色)のご案内をお渡しいただきお誘いください。

アトリエでは

グループ学習を通して仲間づくりをしながら「思いやりの心」を
育み、創作活動の中で自己表現する楽しさを知り

「やる気・やりぬく心」を培って自ら考える力を持った「意欲的な子」

へと成長する場の提供をしています。

1年間を振り返って…アラカルト

今年度も1年間楽しいかがそうけいきょうしつの間があつという間に過ぎました。
担当スタッフより皆様にメッセージを贈ります。

今年度も早いことに1年が過ぎようとしています。
未就額コースのお友達、4月に比べ心身共に成長した様子がうかがえるこの頃です。
(未就学児担当 水野 友美子)

子ども達の様子より … (水彩画)

好奇心旺盛な子ども達、特に初めて絵具を使うお友達は、「早く使ってみよう」とワクワクうれしい気持ちでいっぱい。絵の具の使い方やパレットの使い方など正しい道具の使い方をお約束として説明しますが、なかなか耳に入りません・・・このような時は「これはだめ」「あれはだめ」と、描きたいという気持ちを押し返してしまふよりは、まずは「やりたい」と思う気持ちを受け入れ、自由にやらせて見守ることも。遊び心で楽しむ子ども達は、夢中になって発見や感動に生き生きと目を輝かせます。自由な体験の中で絵具のふたを閉め忘れると絵具が固まって使えなくなったり、いろいろな色を混ぜすぎて色が汚くなってしまふたりということに気が付き、失敗や困った経験をして初めてお約束の意味を理解するようです。やりたいと思う気持ちは、子ども達の発想を豊かにし集中力も付けてくれます。

未就学児は、まだ形として上手に表現することはできませんが、幼児期ならではのピュアな心、自由な発想や視点で思いが詰まった絵を描いています。1年間の作品を大人の固定観念の目で観るのではなく、お子様が何を表現しようとしているのか、お子様が絵を描く姿を想像しながらご覧になり楽しんで下さい。

一年をふり返って

(小学生担当 遠藤 裕子)

生涯にわたって大きな影響をおよぼしていく感情に「自尊心」があります。「自尊心」とは、自己への肯定感・満足感のことです。「自尊心」が高い子どもは、自分の思いや考えを素直に話すことができます。自分に自信があり、学習意欲の向上、友達や周囲の大人との人間関係が良好です。反対に「自尊心」が低い子どもは、ありのままの自分を出すことに自信が持てない。失敗を恐れ、消極的になる。他者に対して信頼感を持つことができないなどあげられます。残念ながら日本の高校生の「自尊心」は、欧米に比べて極端に低いようです。

さて、昨年、文部科学省の「体験活動に関する調査研究」結果にハッとさせられた文章がありました。小学校の頃に自然体験活動、異年齢の相手と遊ぶ機会が多かった子どもは、高校生の時点で「自尊心」の項目の得点が高い傾向が明らかになったそうです。そして、この結果は、小学校時代の体験は長期間が経過してもその後の成長に好影響を与えることの証拠にもなりました。

ふり返れば、「かがそうけいきょうしつ」は、春は畑に行つての「ねぎ坊主ぬき」(南飯淵アトリエ)、田んぼに入って素足での「田植え」、秋は大収穫の「芋ほり」、冬は「糰・味噌造り」と、リアル体験の連続であり、異年齢同士とのふれあいの一年でした。

「実体験」を大切にする「かがそうけいきょうしつ」は、「自尊心」を育むうえで、大きな役割を果たしていると改めて思いました。

おやつ作り… (手作りの味・旬の味・伝統の味)

今年も一年間、おやつ作りを岩崎友里恵先生に担当していただきました。美味しかったね♡下記のみんゆう随想の記事は1986年7月民友新聞に掲載されたものです。こんな親心で、長年おやつを提供し続けてきました。(倉本 まり子)



随想

雨にぬれた庭先のあじさいの花も、回りの青葉も、いっそう澄んで白濁く、外気の汚れも邪気も、雨音に吸いこまれていく梅雨の季節。
じめじめとつとつとつしい時期ながら、開放的で行動的な夏の前の一瞬。雑事に追われる中でも、忘れかけていた温もりが静かによみがえり、心安まる雨の中。
肌寒い入梅のころ。母と何やら話しながら、楽しく過ごした雨の日の一日。めん棒でしぼいたおにぎりのさされた小麦粉が、大小の湯飲み茶わんで、ドーナツ形にぬかれていく。母の作る手をじっと見て作ったねじり花林糖。不思議に大きく膨らんでいった蒸

また、忙しい母との心安まる親子のふれあいの一時であったことを懐かしく思い出される。しかし、時代の変化とともに物が豊富になり、何でも手軽に便利に手に入る時代。私たちの心までが手軽になり、各家庭でとっておきのおふくろの味から、どこでも買える

おふくろの味づくり

倉本 まり子

おこせるだろっか。子どもたちが大人になり「おふくろって、どんな味？」なんておふくろ(私)を思い出せなかつたら、不幸なことではないでしょうか。生活用式が変わり、食生活も大分変わってきた中で、おふくろの味も、お煮しめや芋の煮ころがしから、スパゲ

今、親が身近にできることは、子どもと一緒に粉にまみれ、優しい心を小麦粉に練りこむことが、おふくろ(親)の仕事とも思っています。そこで私も、子どもたちと一緒に、家庭では欠かすことのできないみそを作ってみました。語り継がれてきた先人の生活の知恵や経験を、今私



たちが受け継ぎ、次の世代に確かに「おふくろの味」として残せるように、と。先輩おふくろさまの手ほどきを受け、今年初めての試み。下準備までは気苦労を感じたが、みそつき当日は、子どもたちの力を十分借りて、二百ポのみそがあつという間に出来上がったのです。「みそが出て豆から出来るの?」「これが本当のみそになるの?」と、不思議そうに問いかける子どもたち。「みそってこんな色からどうしてあんな色になるの?」と興味深い顔。

このような体験の中から、疑問や興味をおこし、それがやる気のある芽をはぐくむ。生活力のある子どもを育てることが親の責任であり大切なことだと、子どもたちの輝く目を見て感じた一日でした。
(相馬絵画研究所講師)

